

栄養教諭養成課程の教職科目における模擬授業演習の状況

The current situation of trial lessons in the training course of nutrition teachers

稲田 克二¹

要旨

食物栄養学科で取得できる栄養教諭養成課程の教職科目において、基礎的かつ重要な指導方法である「模擬授業演習」について、受講生が作成する授業評価表を中心にして現状を分析し、課題を検討した。

キーワード：栄養教諭，教職科目，模擬授業演習，授業評価表

nutrition teacher, professional development course, trial lesson,
evaluation sheet of lesson

はじめに

教員養成のための教職科目において、「模擬授業演習」の持つ役割や効果が大きいため、各種の教職科目の中で、指導方法として「模擬授業演習」を活用している場合が多い。本学の食物栄養学科では管理栄養士の養成を第一義としているが、それ以外の資格や免許を付与するため、栄養教諭一種免許が取得できる教職課程を設置している。筆者はその中の「教育の方法と技術」を担当し、この授業において、栄養教諭として「食育」を行うための教育技術や授業実践力を獲得させる方法として、「模擬授業演習」を重要な活動として位置づけている。

この「模擬授業演習」についての、実践報告や研究は、高木（2009）、青木（2013）などの教職課程・教育技術の研究者や指導者により多数なされており、それぞれ「模擬授業演習」が教育技術や授業実践力を育成する方法として有効であることが述べられている。

このような状況の中で、「食育」に関連の深い中学校・高等学校家庭科の教員養成課程での、「模擬授業演習」の有用性に関する研究や実践報告は山野他（2012）、青木（2007,2014）、畦（2017）、山口（2016）など多数の研究・報告がなされており、その中でも堀内（2008）の研究が示唆に富んだものとなっている。

一方、栄養教諭養成課程における「模擬授業演習」についての研究や実践報告はあまり多くなされて

いない。

そこで本稿では、栄養教諭養成課程の教職科目において、筆者が行っている授業評価表を中心とした「模擬授業演習」の現況を報告し、受講者らがどのように「模擬授業演習」を展開し、栄養教諭に必要な教育技法や授業実践力を獲得しているかを示すとともに、あわせてこの「模擬授業演習」のもつ問題点や課題について検討を加えた。

1. 「模擬授業演習」の実施方法

筆者が担当している「教育の方法と技術」では、15回の授業のうちその年度の受講者数により、3～6回の「模擬授業演習」を実施し、受講者全員が必ず2回「模擬授業演習」をできるようにしている。

その方法は、まず「模擬授業演習」に入る前段階として、学習指導案の作成方法を指導し、授業を実施するには、目標、展開方法、評価の一連の流れが重要であることを示し、それに基づいて学習指導案を作成する技法や手法を指導している。なお、この学習指導案の作成に関しては、既に他の科目で履修済みであるため、深入りせず、既習事項の再確認程度としている。

学習指導案が作成できるようになると、次にその学習指導案に基づいて、授業を行うのに必要な基本的な手法や技術を提示し、授業のやり方を習得させ、それらの活動が一定の水準に達した後、「模擬授業演習」に移っていく方法を取っている。

実施方法としては、1人が2回任意のテーマで

模擬授業を行うこととし、まず1回目の模擬授業では、各受講者が30分程度の模擬授業を実施し、模擬授業についての実感を体得させ、次に2回目には実際の授業時間と同じ45分程度の模擬授業を行い、受講生全員が必ず2回「模擬授業演習」を経験できるようにしている。

実際の「模擬授業演習」では、「先生役」の受講者は、自分が作成した学習指導案を他の受講者に配布するとともに、その学習指導案に基づいて作成したワークシートや教材を準備して、「模擬授業演習」に臨む。他の受講者は「生徒」として「模擬授業演習」に参加する形式としている。

ここで重要なことは、「生徒役」の受講者は「生徒」として授業に参加するだけではなく、その模擬授業を評価する作業を同時に行っていることである。この「模擬授業演習」において授業に参加している「生徒役」の受講者が、模擬授業を評価することの意義や有用性は堀内（2008）が示している通り、授業技術・授業方法を習得するために非常に効果的な活動であると考えられる。

筆者が行っている「模擬授業演習」での評価方法とは、第1図に示した授業評価表をもとに、評価の観点として、①授業の目的の明確化、②適切な授業内容の立案、③生徒の授業理解への工夫、④生徒の学習への意欲付け、⑤生徒の状況、⑥授業環境の整備 の6項目についてA～Cの3段階の評価を付け、さらに授業内容、進め方、態度、意欲などに関して「良かった点」と、こうすればよくなる、こんなやり方はどうだろうと思った「改善すれば良くなる点」に関して文章で記述する評価方法を取っている。

模擬授業終了後、筆者が「生徒役」の受講者にその模擬授業の「良かった点」や「改善すれば良くなる点」などを問い、筆者がそれらに加えて寸評を行っている。その後「生徒役」の受講生はその模擬授業に関して授業評価表を記入して、授業終了後に提出することとしている。これにより「生徒役」の受講生は、ただ単に他者の模擬授業を見学するだけではなく、他者の模擬授業を評価することを通して、自らが授業を行う上で必要な技術や手法を獲得することができるようにしている。

授業終了後、提出された授業評価表を筆者が点検するとともに、「生徒役」の受講者が書いた授業評価表のコピー¹⁾と筆者が評価を記入した授業評価表を、次週に模擬授業を行った受講者に返却する方法を取っている。これにより模擬授業実施者

は、他の受講者が作成した授業評価表と、筆者が作成した授業評価表を読むことにより、自分の行った模擬授業の客観的な評価や、「良かった点」、「改善すべき点」などを総合的に理解できるようにしている。

この方法は受講者にたいへん好意的に受け取られ、2回目の模擬授業では、1回目の模擬授業で高く評価された点をさらに伸ばし、改善すべきと指摘された点を改善して、ほとんどの受講者は良好な模擬授業を実施できるようになっている。この状況は、筆者が他大学で実施している「模擬授業演習」でも同様に良好な状況となっている。稲田（2016）

2. 授業評価表の分析

ここでは「生徒役」の受講生が作成した授業評価表に関して検討を加えてみる。なお、今回は受講者の考え方や受け止め方について検討を加えるという視点から、①授業の目的の明確化、②適切な授業内容の立案、③生徒の授業理解への工夫、④生徒の学習への意欲付け、⑤生徒の状況、⑥授業環境の整備 の6項目についてA～Cの3段階の評価を付けることに関しては、研究の対象からは除外した。

さて、2017年度、筆者が担当した「教育の方法と技術」の受講者は10名で、各人が2回模擬授業を実施したので、評価対象になった模擬授業は20件あった。この20件の模擬授業に関して、受講者が作成した授業評価表の「良かった点」「改善すれば良くなる点」について記述したコメント数は813件であった。この813件のコメントについて、分析を加えるにあたっては、堀内が分析した方法 堀内（2008）をもとに、筆者がこれに一部加筆修正をした項目を第1表のようにして分類した²⁾。

受講者が模擬授業に関して評価したコメントを、まず大きく「基本的な資質」「指導技術」「授業構成力」の3つの大項目に分類し、それをさらに「基本的な資質」については、「表情」「声の大きさ・言葉づかい」「態度」の3つの小項目に、「指導技術」については、「板書」「進め方」「発問」「指示・説明」「児童への対応」の5つの小項目に、「授業構成力」については、「授業内容」「教材・教具」「授業準備」の3つの小項目に、合計11の小項目に細分した。

さて、実施された20件の模擬授業に関して、記述されたコメント数は、1件につき34～55件で、平均すると約42件であった。そのうち、「良かった

点」についてのコメント数は22～38件、「改善すれば良くなる点」についてのコメント数は9～18件で、その比率は、ほぼ2：1の割合になっている。これは筆者が「模擬授業演習」を開始する前に、「生徒役」の受講者に対して、「先生役」の受講者が模擬授業をおこなって、不十分であったことや失敗したことに関する否定的なコメントより、良かった点・上手に出来た点を見つけてアドバイスをしましょうと指導していたためと考えられる。

20件の模擬授業に関して、「基本的な資質」「指導技術」「授業構力」の3つの大項目別のコメント数については、「基本的な資質」については94件、「指導技術」については409件、「授業構力」については310件、となっており、比率としては、「基本的な資質」が11.6%、「指導技術」が50.3%「授業構力」が38.1%となっている。これらの3つ大項目については、内包する小項目の項目数に多寡があるため、大項目ごとの比較検討は大きな意味を持たないと考えられる。

そこで、模擬授業をする上で必要な視点や技術・対応方法・資料などの観点から分類した小項目ごとに検討を加えた。コメント数の多さから順をつけると、「授業内容」についてのコメント数が最も多く156件、「教材・教具」が132件、「進め方」が122件、「板書」が102件、「児童への対応」が92件、「指示・説明」が75件、「声の大きさ・言葉づかい」が60件となっており、これら7項目で全コメント数の90%を占めている。

これらのうち、「良かった点」については「授業内容」が93件、「進め方」が88件、「教材・教具」が85件、「児童への対応」が75件、「板書」が73件、「声の大きさ・言葉づかい」が45件、「指示・説明」が33件となっており、これらの7項目で「良かった点」のコメント数全体の91%となっている。

一方否定的な「改善すれば良くなる点」に関しては、「授業内容」が63件、「教材・教具」が47件、「指示・説明」が42件、「進め方」が34件、「板書」が29件でこの5項目で「改善すれば良くなる点」のコメント数全体の79%となっている。

これらの小項目ごとの状況をみると、「授業内容」「教材・教具」「進め方」「板書」の4項目についての「良かった点」と「改善すれば良くなる点」の合計の記述が各々100件以上なされておりこの4項目で全コメントの63%を占め、模擬授業を進めていく上で最も重要かつ根幹をなす事項について、受講生は理解・意識して模擬授業を見ていることを

示している。続いて「児童への対応」「指示・説明」「声の大きさ・言葉づかい」の3項目が全コメント数の28%を占め、言葉で表現することについての意識や関心がなされていることを示している。と同時に、模擬授業を実施する上で重要な事項についての理解や認識ができていられると考えられる。

ただし、ここで注目すべき点は、「指示・説明」と「授業準備」のコメント数である。この2つの項目に関しては、「良かった点」のコメント数よりも「改善すれば良くなる点」のコメント数の方が多くなっている逆転現象が見られることである。この現象は他の小項目では見られず、「指示・説明」「授業準備」に関してだけ生じており、一部の受講生の未熟さが顕著に現れていた結果と考えられ、次年度以降に筆者がこの授業を担当するときに注意が必要な事項であると考えられる。

3. 各テーマについてのコメントの状況

この「模擬授業演習」では既述したように「生徒役」の受講生が、「先生役」の受講生が行う模擬授業を見て「良かった点」「改善すれば良くなる点」に関して、コメントを記述して評価を行い、筆者に提出したものを、次週にそのコピーを模擬授業を行った受講者に返却するやり方を取っている。これにより、「先生役」の受講生は、自らが行った模擬授業がどのような状況であったのかを客観的に知ることができるようになっている。と同時に「生徒役」の受講生は、他の受講生が行う模擬授業を評価することにより、自分が模擬授業を行うときに必要な指導技術や授業構力などを習得できるので、模擬授業についてコメントを書くことは、受講生にとって非常に有意義な活動となっていると考えられる。この状況は先述の他大学での「模擬授業演習」でも同様となっている。稲田（2018）

さて、2017年度の授業で行われた模擬授業は20件であったが、これらについてテーマごとのコメント数をみると、『清涼飲料水の砂糖の量を知ろう』が55件、『給食を通して考えてみよう』が53件、『朝ごはんを食べよう』が52件、『豆腐博士になろう』が52件、『食料自給率について考えよう』が46件、でこの5つのテーマで全コメント数の32%と占めている。

この5つの模擬授業は、テーマ選択、授業構成、授業の進め方に対して、多くの受講者が強い興味と関心を示し、高い評価を下した授業であった。そこでこれらの5つの模擬授業に対して、「生

生徒役」の受講者が具体的にどのようなコメントを書いたかを以下に示してみる³⁾。コメントについては、「生徒役」の受講生一人が記述したコメントを「」内に示し、①のように番号を付した。

(1) テーマ『清涼飲料水の砂糖の量を知ろう』

◇良かった点

- ①「「今から説明するので前を向ってください」という声かけがあった。目で見て砂糖の量がわかった。角砂糖のイラストを貼っていくことでワクワク感があった。準備が良くできていて、子どもたちがスムーズに動きやすいと思った。フリガナが見やすくて良かった。イラストが多くて視覚的によくわかった」
- ②「字がきれい。板書が見やすい。しゃべり方がゆっくりでわかりやすかった。最後のプリントがまとまっていて、復習できるところが良い。実際の飲み物や砂糖を使うことで授業に参加しやすかった。流れがスムーズで良かった。授業の入りの質問が良かった。」
- ③「砂糖の量を考えさせて、実物に触れながらやったのが良かった。話し方がゆっくりで聞き取りやすい授業だった。ジュースがありテンションがあがった。字がきれい。」
- ④「砂糖の量を把握させるために、実際に飲んでもらって考えてもらうのは、とても良い工夫だと思った。砂糖の役割を詳しく説明することで、後の流れがスムーズになっていた。普段の料理にも砂糖が含まれていて、その分も含めて調整しないといけなかったことがよくわかった。」
- ⑤「清涼飲料水の砂糖の量を実物で示してくれたため、より理解しやすかった。スムーズな授業の流れだったため、生徒たちも先生のペースに無理なく乗っていったと思う。」
- ⑥「たくさん発問していて良かった。字がきれいで見やすい。カラフルでわかりやすい。生徒からの質問に正しく答えられていた。最後に砂糖についてのリーフレットを配って、家の人に見せるやり方が良かった。」
- ⑦「黒板の字がきれい。対象者にあった話し方ができていた。色をたくさん使っていた。実物を使ってわかりやすかった。最後に砂糖についてのリーフレットを配布したのは、自宅に帰ったあとも復習できるので良かった。」
- ⑧「スムーズに進んでいたのが良かった。板書の文字もきれいで見やすかった。飲み物の中にど

れくらいの砂糖が入っているかがわかりやすかった。カゴや手袋など、事前の準備がとてもしっかりできていると思った。」

- ⑨「黒板が見やすくて、授業の流れもスムーズで良かった。実際に砂糖やジュースを使ったことで、授業内容が分かりやすくなっていた。媒体も工夫されていてよかった。」

◆改善すれば良くなる点

- ①「イラストが少し小さいと思った。1日20gのところで、他に含まれる砂糖って何だろう？ 砂糖の量に注意した飲み方って何？ と広げたらいいと思った。」
- ②「イラストが少しわかりにくいなと思った。砂糖の量のヒントが欲しかった。」
- ③「もう少し、大きな声で説明して欲しい。生徒への問いかけや、問題についてのキャッチボールが欲しい。」
- ④「板書などのレイアウトの調整が必要。実際にラベルを見てもらうことで、ジュースと清涼飲料水の違いをもっと理解させることができると思う。」
- ⑤「黒板に貼ってある教材が小さくて、つめて貼っていた点が気になった。内容的には高学年の方が適していると思う。」
- ⑥「果汁100%の「ふきだし」が、緑色の台紙に黒文字で書かれていたので見にくかった。黒板に貼る絵が少し小さかった。」
- ⑦「実際の食べ物を使うので、取り扱いに注意が必要。」
- ⑧「イラストがもう少し大きい方が見やすいかなと思った。」
- ⑨「媒体がもう少し大きくなれば見やすいと思った。人工甘味料の説明があったら良かった。」

(2) テーマ『給食を通して考えてみよう』

◇良かった点

- ①「言葉が丁寧。児童と積極的にコミュニケーションをとっていた。皆が発言できるように工夫していた。児童の意見にプラスして解説していた。文字が大きく見やすかった。「やっぱり日本の給食っていいね」とまとめているところが良かった。写真が見にくかったが、後ろまでまわって見せてくれた。」
- ②言葉がゆっくりで、優しい口調だったので聞き取りやすかった。生徒とのコミュニケーションが多く、みんなが授業に参加できた。板書が見

やすかった。言葉づかいが丁寧だった。外国の給食と日本の給食を比較するところが、すごくおもしろい内容だと思った。」

- ③「しゃべり方がていねいでゆっくり話していたので、聞き取りやすかった。黒板の文字が大きかった。外国の給食と比較するのはおもしろいと思った。生徒に合わせてしゃべり方や速度がゆっくりでよかった。植民地についての説明があった。説明がわかりやすい。他国の給食との比較が良かった。「お食事」という言葉づかいが良かった。」
- ④「字が大きく見やすい。みんなの意見を取り入れて進めていた。写真でそれぞれの国の給食を見ることができてわかりやすかった。「人種のサラダボール」や植民地など、社会科にも関連づけられていて、勉強になった。」
- ⑤「みんなに意見を聞いて、考えさせていた。話し方が丁寧で、わかりやすかった。資料を提示するとき、前回よりも見やすくなっていた。」
- ⑥「丁寧な話し言葉で子どもにわかるように、かみくだいて説明していた。実際の写真を用いて、想像しやすくしていた。違いが比較しやすい。」
- ⑦「机間指導ができていた。写真を見せるため席まで来たので、細かいところも見やすかった。話し方がゆっくりで、聞き取りやすかった。」
- ⑨「世界の給食を日本の給食と比較することで、違いがよくわかるし、興味がもてた。言葉が丁寧であった。常に生徒が見やすい位置で写真を見せてくれていた。」

◆改善すれば良くなる点

- ①「最初の説明がゆっくりしていて、少し退屈になってしまいそうに感じた。媒体と図が見にくかったので、太く大きくしたら良いと思う。」
- ②「言葉が少し難しい時があった。おしゃべりしている人を少し注意して、時間通りに進めれば良かったと思った。」
- ③「少し全体にゆったりしているかと思った。黒板の字は大きかったが、国名やフリガナは小さくて見にくかった。グループの前で「前の写真を見て書いて」という指示だったが写真が見えなかったので、班に1枚ずつ写真があれば良いと思った。」
- ④「マスクは耳にかけず、はずした方が印象が良い。黒板の使い方が見にくい。」
- ⑤「もう少し大きく、ハキハキとしゃべらないと、何を言っているのかわからない。もっと、生徒

とキャッチボールができるようにならないと、「ふーん」「へー」で終わってしまうと思った。」

- ⑥2班に分けて黒板に良いところを書き分けていたが、「良いところ」「1班」「2班」などの言葉を書き加えたら見やすいと思った。黒板の赤色の文字が見えにくかった。」
- ⑦「写真の見せ方が少し見づらかった。発問に対して答えたときの反応の表情がこわかった。」
- ⑧「私語をしている生徒に注意したり、聞いて欲しいところは、話を聞くように注意した方が、スムーズに授業を進められると思った。」
- ⑨「説明の合間の間が少し気になった。生徒が私語をしているときに注意していなかった。」

(3) テーマ『朝ごはんを食べよう』

◇良かった点

- ①「終始テンションが高くてよかった。声がハキハキして聞き取りやすかった。パンパン、トントンと黒板を叩いたりして注目を集めていた。大きい媒体で見やすかった。子どもが発言したら、丁寧に返答していた。」
- ②「声がよく通り言葉がはっきりしている。授業の流れ通りに生徒を導いている。グループワークがあって良いと思った。板書が丁寧であった。生徒とのコミュニケーションがよくできていた。プリントに目標を書いて、チェックシートにしていた良かった。」
- ③「朝ごはんの役割を「〇〇パワー」で統一していて、次はどんなパワーだろう？と興味が湧いた。説明もわかりやすくてよかった。朝ごはんを食べると〇をつけるというリストは、本当に朝ごはんを食べる人が増えると思った。児童の発言一つ一つにリアクションをしていて、子どももうれしくて答えよう！となると思った。」
- ④テンションが高く身振りや手振りがあって、参加しやすく聞きやすかった。「勉強パワー」、「体温パワー」などの説明があって良かった。字もわかりやすかった。」
- ⑤メリハリがあって子どもが乗ってきやすい雰囲気であった。生徒の答えにあわせて丁寧に答えを返していて、とてもわかりやすかった。キャッチフレーズがあって覚えやすかった。ヒントの出し方が上手だった。身振り手振りがあって、話とプラスされ理解しやすくなっていた。」
- ⑥「朝ごはんについて、大切な点だけをわかりやすく説明していたので、要点をつかみやすかつ

た。生徒一人ひとりに目配りをして、様子をうかがいながら授業を進めていたところが、やさしい先生の印象を受けた。元気でわかりやすい先生であった。」

- ⑦「元氣よく導入が始まって、聞こうとする意識が出た。「勉強パワー」とかのキャッチコピーを使っていたので、覚えやすいと思った。出来たら〇をつけようと言う評価表シートがあって、振り返りが出来るのは良い案だと思った。」
- ⑧「テンションが高くて子どもたちをひきつけられていた。子どもが答えたことに対して、ほめていたのが良い。「〇〇パワー」って言うのが、子どもたちがかっこいいと思うだろうなと思った。子どもの話に乗ったり、机間指導をしていた。セルフチェックシートがあるのが良かった。」
- ⑨「声を通して、とても聞き取りやすかった。授業を始めるときの注目のさせ方が上手。生徒とのキャッチボールがよく出来ていた」

◆改善すれば良くなる点

- ①「カンペをみている時間が少し多かった。」
- ②「不調という言葉が難しいと思った。たまに、3年生には難しいと思う言葉があった。話し方ははっきりして良かったが、少し早口だと思った。」
- ③「黒板がシンプルで見やすいけれど、もう少しイラストをつけるとカラフルで、小学生もより興味をもって黒板を見erと思った。」
- ④「最初の「食べないと」だけじゃ何を？となる。朝ごはんの重要性がもうちょっと欲しかった。「だよー」という語尾が気になった。」
- ⑤黒板を強く叩きすぎて、大きな音が鳴っていたので、もう少し控えめにしたほうが、子どももびっくりしないかと思った。」
- ⑥「3年生を対象にすると、早口だと思う。先生が元氣すぎて、おとなしい子どもは、やりにくいケースが出るかもしれない。」
- ⑦「黒板に書く漢字が3年生では習っていないようなものがあった。「お母さんに～してもらってください」という言い方はお母さんがいない子どももいるので不適切である。」
- ⑧「もう少しゆっくり話した方が聞き取りやすい。「お母さんに」じゃなく、「おうちの人に」とする方が良い。」
- ⑨「「帰ってお母さんに」ではなく、「おうちの人」と言う言葉の方が配慮があると思う。」

(4) テーマ『食料自給率について考えてみよう』

◇良かった点

- ①「プリントに書いてあることをわかりやすく丁寧に説明していた。フードマイレージの問題や地球温暖化の問題も取り入れられていた。児童とのコミュニケーションがしっかり取れていた。」
- ②「話し方がやさしくて聞き取りやすかった。私たちが授業を受けていても楽しかったし、わかりやすかった。生徒とのコミュニケーションがよく取れていた。写真が多くて見やすかった。」
- ③「子どもとのコミュニケーションや、やり取りがよく出来ていた。当日の給食を使うと食べ物にも興味が湧くと思った。時間把握もしっかり出来ていた。」
- ④「円グラフを使ってわかりやすかった。給食の献立を用いたのが良かった。生徒からの呼びかけに対応できていた。」
- ⑤「食料自給率を考える上で、とてもスムーズに出来ていたと思った。特に給食を最初に確認させておいて、その食品を使うことで強く印象づけることが出来ていたと思う。」
- ⑥「授業の展開がうまかった。伝えたいことがよく伝わっていた。質疑応答がきちんと出来ていた。絵がいっぱいあって、黒板が見やすかった。」
- ⑦「タイトルが大きくて見やすかった。子どもの反応を見ていた。質問や問いにもきちんと対応していた。」
- ⑧「字がきれいで見やすかった。生徒への問いかけが多くて、生徒を上手に授業に引き込んでいた。生徒が答えた後に肯定したり、ほめていたところが良かった。」
- ⑨「生徒とコミュニケーションがしっかり取れていた。イラストがたくさんあって見やすかった。食料自給率の説明を詳しくしてくれた。」

◆改善すれば良くなる点

- ①「黒板に貼った文字が見にくかったので、もう少し太い文字の方が見やすい。小学生で学ばない漢字に気をつけたら良いと思った。」
- ②「言葉のイントネーションがたまに気になった。難しい漢字がいくつか使われていた。」
- ③「漢字をその学年で習っているか調べておいた方が良い。黒板に貼る媒体のサイズを全体に大きくした方が良い。言葉が少々難しいと感じた。」
- ④「狭いという漢字は中学で習う漢字なので、ふりがなが必要。もう少し声を張ったらいかな

と思った。」

- ⑤「黒板に貼り付けた文字の大きさはそのままが良いが、太字にした方が見やすい。「できること」の項目で、小学生の視点で考えて、自分たちに何が出来なのかを考えてもらって、もっと広く理解できると思った。」
- ⑥「黒板に貼っている絵が小さかった。前に出て地図を見せていたが、場所によっては見にくかった。」
- ⑦「黒板に字を書いた後の立ち位置が、書いた字の前に立っていたので、少しずれた方が良い。写真が小さかった。」
- ⑧「資料を見せるときの位置が、班と班の間であれば見やすい。」
- ⑨「イラストをもう少し大きくするべき。プリントで考えた内容をすべて聞き出してくれたら良かったと思う。」

(5) テーマ『豆腐博士になろう』

◇良かった点

- ①「ハキハキした授業で先生のテンションが高くて楽しかった。ソフト豆腐などのその他の豆腐の説明がわかりやすかった。板書がわかりやすかった。豆知識や補足説明が詳しく良かった。」
- ②「テンションが高く授業に参加しやすかった。生徒がいろんな発言をしても、拾うところは拾って、後回しにするものは後回しにするなど、授業をスムーズに進めていて良いと思った。説明の仕方がわかりやすかった。」
- ③「声も大きくて、しゃべり方に抑揚がしっかりついていて、表情豊かで、先生の話に興味をもって集中して聞けた。くぎづけになった。難しい言葉を使ってしまったら、すぐに簡単な言葉に直して良かった。対応が早い。豆知識や説明がわかりやすく、納得できるものばかりであった。」
- ④「生徒の意見をきちんと聞いていて、ノリが良い。」
- ⑤「生徒たちに発言させて、その発言内容から、次の題材に切り替わるのがとてもスムーズで、流れが良かった。楽しいのが伝わってきて、こちらも楽しくなった。豆腐をメインに持ってきて、ここまで詳しく説明できるのかと感心した。」
- ⑥「声が大きくて、元気な先生だったので、授業の波に乗っていきやすかった。生徒目線に立って話していたところが良かった。生徒とのキャッ

チボールができていたため、生徒たちが先生に親しみをもって接していた。」

- ⑦「ユーモアがあって楽しかった。絹ごし豆腐ともめん豆腐の違いを詳しく説明していて、興味を引き出させていた。」
- ⑧「豆腐への興味のひかせ方が良かった。豆腐の豆知識がたくさんあって楽しかった。子どもの意見にちゃんとリアクションしていたのが良かった。写真がたくさんあって、イメージしやすかった。先生が楽しそうに授業をしていて、こっちまで楽しくなった。」
- ⑨「授業の入り方が元気で良かった。ノリが良くておもしろかった。説明が詳しく良かった。豆知識が多くて、生徒たちの質問にも良く答えられていた。」

◆改善すれば良くなる点

- ①「日本史を習っている学年（5年生以上）に授業をするべきだと思った。「こいつ」などの言葉が気になった。「その他の豆腐」の説明をわかりやすくするために、豆腐の作り方があれば良いと思った。」
- ②「イラストが少し小さくて見にくかった。大豆という文字が、イラストに隠されていたが、その必要はないと思う。」
- ③「発祥の地や、いつ日本にきたか、ハレの日、名前の由来などのイラストが少し小さかった。イラストの右側にスペースがあったので、イラストを大きくするか、言葉で簡単に書くといいと思った。」
- ④「この授業は4年生で行うことになっているが、日本史は5年生で習うと思うので、注意が必要。クイズの時は、見回った方が良い。」
- ⑤「絹と木綿の違いで、「作り方が違う」というのが重要であると思うので、板書した方が頭に残りやすいと思った。ビタミンの美容効果は小学生にはいらななかった。」
- ⑥「内容が高学年向きだったと思う。歴史は小学6年生で習うのに、説明では難しい言葉を使っていた。豆腐の歴史の説明が長かったため、退屈になった。しかし後半の発言場所が増えることで面白くなった。」
- ⑦「4年生には難しいと思った。6年生ぐらいでもいいかと思う。もう少し落ち着いて話せたら良かったと思う。」
- ⑧「時々難しい言葉を使っていた。絵が小さくて見えにくかった。」

- ⑨「歴史の話をするとき、言葉が少し難しかった。クイズが少し難しかった。豆腐の作り方の説明が無かった。」

4. 各テーマのコメントについての検討

ここでは、題材として取り上げた5つの模擬授業に関して記述されたコメントについて検討を加えてみる。

- ①どのコメントも、授業の始まりから終わりまで確実に見ており、授業をする上で必要な項目について注意が払われ、深く観察が行われている。
- ②授業を行う上で特に重要な指導方法、表現方法、言葉や行為については、的確な評価を下している。
- ③評価の対象は、授業内容、教材・教具、話し方など、細部にわたって詳しく観察している。
- ④他者の模擬授業の良い点を見ることにより、それを自分の授業に取り入れようとする視点が見られる。
- ⑤副教材やワークシートについても、その良否が示されている。
- ⑥不十分な内容や活動に関しても、適切に観察がなされており、「改善すれば良くなる点」に的確に記述している。
- ⑦「改善すれば良くなる点」については、不都合な点の指摘だけではなく、自分ならこうするというような前向きなアドバイスが多数なされている。
- ⑧模擬授業の中で特に優れた点や、顕著な改善すべき点については、「生徒役」の受講生の多くが同様の指摘をしており、模擬授業を見る目が的確に形成されていることを示している。
- ⑨模擬授業を重ねるほどに、コメント内容も進化し、質の高い指摘が出来てきている。
- ⑩模擬授業のコメントを記述することにより、理想の授業の形態やあり方を模索することができる受講生が出てきている。
- ⑪全体として、他者の模擬授業に対して、真摯に参加し、考えたこと、気づいたこと、感心したことなどを率直な意見として記述している。
- ⑫この授業の目標は、授業を行う上での実践的指導方法や技術を習得することを主眼としたため、学習指導案に関する言及は、あまり行われていない。

を示した。

- ②その中で受講生に作成させている「授業評価表」に関してその現況を示し、「模擬授業演習」において、他者の授業を評価することの重要性と効果を示した。

- ③特に「授業評価表」を作成させることにより、授業目標を達成するための授業内容の組み立て方法や、授業を実施する上で根幹となる部分のもとより、教具、ワークシート、言葉づかい、表情、板書などの基礎的、基本的な事項にいたるまで、実際に授業をする上で必要な事項を細部にわたって習得できている。

- ④上記のように、模擬授業演習で「授業評価表」を作成することにより、ただ単に模擬授業演習をするだけでは得られない数多くの指導方法、指導技術などを的確に習得できしており、「授業評価表」を作成する活動の持つ意味や効果は非常に大きいと考えられる。

今後の課題

- ①模擬授業終了直後に、模擬授業実施者が授業に関する考えや、うまくできたこと、十分にできなかったこと、反省すべき点などを表明し、それをもとに「生徒役」の受講生との議論を進めることができていない。
- ②「模擬授業実施者」と「生徒役」の受講生の間では、模擬授業に関して、授業評価表を通して意見交換は出来ているが、「生徒役」の受講生間での意見交換や議論がないため、指導技術や指導態度などの重要事項の共有が出来ていない。
- ③次週に、受講生が書いたコメントをもとに、模擬授業実施者と「生徒役」の受講生との意見交換や討議がなされていないため、模擬授業演習の内容の深化ができていない。
- ④この授業の目的からして、学習指導案の記述内容に関しての議論があまりできていなかったが、学習指導案と模擬授業の関連性を深めることにより、さらに充実した学習指導方法や授業実践力が獲得できるので、その機会を持つことが重要である。
- ⑤模擬授業演習を重ねていくうちに、受講生の評価の観点や視点が固定化されていく傾向があり、評価が定番化する場合があった。
- ⑥4年生で行われる栄養教育実習の終了後に、この授業で習得できた指導技術・方法や、十分に獲得できなかった事項について、調査・研究を

まとめ

- ①筆者が授業で行っている模擬授業の状況や手法

することにより、3年生で行う「模擬授業演習」の授業改善に結び付けられる可能性が高い。

要, 第61号, 第5分冊, 145-153

- ⑦本稿では、「生徒役」の受講生からの評価が低かった模擬授業には検討を加えなかったが、今後低評価の模擬授業を詳細に検討することにより「模擬授業演習」を行う上で指導上重要な事項がより明瞭になってくると考えられる。

注

- 1) 提出された授業評価表の評価者の氏名は切り離し、模擬授業実施者には誰が書いた授業評価表であるかはわからないようにした。
- 2) 本稿を作成するにあたって、授業の受講者が提出した授業評価表を利用することに関しては、受講者全員から2018年5月に承諾を得た。
- 3) これらは学生が書いた原文のまま記述したが、一部については加筆修正をした。

参考文献

- 青木幸子. (2007). 家庭科教員養成における模擬授業実践を取り入れた教育法プログラムの検討 (第2報), 日本家庭科教育学会誌, 49(4), 268-278
- 青木幸子. (2013). 模擬授業による教育実践力の育成の可能性, 東京家政大学博物館紀要, 第18集, 27-37
- 青木幸子. (2014). 授業評価に見る教職課程履修学生の指導能力の向上, 日本家庭科教育学会誌, 57(3), 171-183
- 畦五月. (2017). 初等家庭科教育法における模擬授業での相互評価からみた授業実践力について, 就実論集, 第46号, 221-232
- 稲田克二. (2016). 社会科・地理歴史科教育法の内容と受講者の意識, 教職教育センタージャナル, 第2号, 37-38
- 稲田克二. (2018). 社会科・地理歴史科教育法における模擬授業の状況, 教職教育センタージャナル, 第4号, 今西先生退職記念号, 32
- 高木幸子. (2009). 教育実習とつないで授業実践に必要な知識技術の理解を深める実践参加型授業の試み, 大学教育研究年報, 13, 9-12
- 堀内かおる. (2008). 家庭科教員養成における模擬授業の有用性, 日本家庭科教育学会誌, 51(3), 169-179
- 山野美咲他. (2012). 家庭科教員養成における学生参加型授業についての一考察, 福岡教育大学紀

第1図 授業評価表

評価日 年 月 日

授業実施者 ()

単元名 ()

評価の観点	評価の項目	評 価	備 考
授業の目的の明確化	授業の目標が生徒に明らかにされているか	A B C	
授業理解への工夫	板書が見やすく工夫されているか	A B C	
	板書や文書に誤字・脱字がないか	A B C	
	声は大きく聞きやすく、言葉はわかりやすいか	A B C	
	話のスピードや抑揚は適切か	A B C	
	副教材やプリントは工夫されているか	A B C	
	授業の展開にメリハリが利いているか	A B C	
	豆知識や補足説明が適切か	A B C	
学習への意欲づけ	生徒の態度や表情を見ているか	A B C	
	発問・発表など生徒の参加が考慮されているか	A B C	
生徒の状況	生徒が生き活きと授業に参加しているか	A B C	
	生徒が授業を理解できたか	A B C	
事前準備	教材研究が十分になされているか	A B C	
学習指導案	学習指導案が適切に作成されているか	A B C	
総合評価	総合的に評価して	A B C	

*良かった点 (授業内容、進め方、態度、意欲など気がついたところを書いて下さい)

*改善すればよくなる点(ここは、こうすればよくなると思った点、こんなやり方はどうだろうかと思った点)

評価者 学籍番号 () 氏名 ()

第1表 模擬授業のテーマと評価の分類

テーマ		評価内容	基本的な資質				指導技術				授業構成力							
			表情	声の大きさ と言葉づかい	態度	小計	板書	進め方	発問	指示・説明	児童への対応	小計	授業内容	教材・教具	授業準備	小計	合計	総数
牛乳の変身	良かった点		1		2	3	4	2	2	3	13	5	3		8	24		
	改善すべき点					0	2	1	2	1	6	4	2		6	12	36	
めざせ！じょうぶな体	良かった点			5		5	5	4	1	1	12	4	6		10	27		
	改善すべき点					0	2	3		1	6	4	2		6	12	39	
旬って何だろう	良かった点		1	2		3	5	3		1	6	15	7		7	25		
	改善すべき点			2		2	2	7			9				0	11	36	
行事食	良かった点		1	4		5	2	5	1	4	12	4	6		10	27		
	改善すべき点			1		1	1	3	2	1	6	3	3		6	13	40	
おいしいおやつを正しく食べよう	良かった点		1	3		4	1	5	1	1	6	14	7	2	9	27		
	改善すべき点					0	5	1	2		8	2	2		4	12	39	
「いただきます」の意味を考えよう	良かった点			1	2	3	3	4	3	9	19	1	4		5	27		
	改善すべき点			1		1		3			3	9	2		11	15	42	
朝ごはんを食べよう	良かった点			3	7	10	2	3	1	3	7	16	6	5	11	37		
	改善すべき点			4	1	5	1	1		3	1	6	2	2	4	15	52	
清涼飲料水の砂糖の量を知ろう	良かった点			3		3	8	4	2	3	17	9	7	2	18	38		
	改善すべき点			1		1			1	2	3	5	8		13	17	55	
おはし名人になろう	良かった点			2		2	9		1	2	1	13	8	3	11	26		
	改善すべき点			1		1	1		1	1	3	7			7	11	37	
食料自給率について考えよう	良かった点			2		2	2	4	2	1	8	17	6	4	10	29		
	改善すべき点			1	1	2	7		1		8	2	5		7	17	46	
品質表示を見てみよう	良かった点			4		4	8	5			4	17	9		9	30		
	改善すべき点					0		1		3		4	8		8	12	42	
給食を通して考えてみよう	良かった点			10		10	4	4	1	5	4	18	5	2	7	35		
	改善すべき点			1	1	2	4	3		2	5	14		2	2	18	53	
野菜やいのひみつ	良かった点			2		2	3	6		3	7	19	4	3	7	28		
	改善すべき点					0		3		3	6	1	1	3	5	11	39	
すきらいせず元気になろう	良かった点			1	1	2		10			1	11	3	5	1	9	22	
	改善すべき点			3		3	2				2	1	6		7	12	34	
魚はかせになろう	良かった点			1		1		4		2	4	10	6	12	18	29		
	改善すべき点					0	1	2			3	4	3	3	10	13	42	
食べ物の栄養素について考えよう	良かった点			1		1	6	5			11	4	8		12	24		
	改善すべき点					0	1	1		2	4	8	5		5	13	37	
美味しいって何だろう	良かった点			1		1	3	4		1	4	12	11	1	12	25		
	改善すべき点					0		3		1		4	2	1	7	10	14	39
春の七草を知ろう	良かった点					0	6	8		3	2	19	3	7	2	12	31	
	改善すべき点			2		2		1			2	3		4		9	40	
大豆とお米は大の仲良し	良かった点		1		3	1	4	6		1	5	16	7		7	24		
	改善すべき点					3				9	1	10	1		1	14	38	
豆腐博士になろう	良かった点			1	8	9	1	6		5	3	15	2	1	4	7	31	
	改善すべき点			1		1	1	1		10	1	13	3	4		7	21	52
	良かった点 小計		5	45	20	70	73	88	15	33	75	284	93	85	9	187	541	42
	改善すべき点 小計		0	15	9	24	29	34	3	42	17	125	63	47	13	123	272	
合計		5	60	29	94	102	122	18	75	92	409	156	132	22	310	813		
割合 %		0.6	7.4	3.6	11.6	12.5	15.0	2.2	9.2	11.3	50.3	19.2	16.2	2.7	38			